

「人間社会学部」紹介

学部長 志田 直正

長い歴史と伝統を誇る静岡英和女学院に、新たに、男女共学の四年制の大学、静岡英和学院大学が設置された。

人間社会学科（一三〇名）と地域福祉学科（二二〇名）の二学科を擁する人間社会学部の一学部からなる小規模な大学である。

この人間社会学部の性格と特徴について、ここで簡単に紹介しておきたい。

人間社会学部の理念と目標

人間社会学部は、基本的には静岡英和女学院短期大学の建学の礎であるキリスト教精神に基づく「愛と奉仕の実践」を教育研究の基底として受け継ぐものである。

学部の基本理念は、自立しつつ他者と生きる「共存・共生」の精神に立って、「人間」の理解を根本に置き、人間の創りだした「社会」を、「人間」と「社会」の有機的関連から総合的に探求し、「人と人」、「人ともの」、「人と社会」との本来あるべき調和のとれた関係を模索、究明するところにある。そして、真に共存・共生しうる新しい人間社会、他者への愛が実現する新しい福祉社会の建設に貢献する人材の育成に、本学部の教育研究の目標がおかれている。

二十一世紀を迎え、科学技術の驚異的な進歩とともに、人間の価値観はますます多様化し、また人間社会は情報化、国際化、少子・高齢化等の時代の潮流の中で、一層複雑化の度合いを深めている。この現代の社会に、より適切に対応して生き、生活していくには、「人間」と「社会」の関連やその仕組みを、一層深く、幅広く、かつ的確に理解するなか

で、個々の人間を取り巻くあらゆる他者と真に共存、共生できる人間及び人間社会の実現を目指していく必要がある。また、人間のみが生みだす「文化」と「福祉」を人間と社会とともに総合的に捉える必要性も生じてくる。学部の名称を「人間社会学部」とした理由は、このような理念と目標をもつ学部を志向するところにある。

学部の構成と教育課程の特色

人間社会学部は、初めにも指摘したように「人間社会学科」と「地域福祉学科」の二学科から構成されている。各学科の詳しい紹介は別の機会に譲るとして、ここでは両学科の性格を簡単に指摘しておくにとどめる。

人間社会学科においては、ますます複雑化していく社会的存在としての人間と社会の営みを、できるかぎり学際的、総合的視点から考察する。そして、「人間」と「社会」および人間がその社会的営為をとおして生み出す「文化」とが相互に調和しうる関係を究明して、よりよい共生関係の人間社会を創造できる総合的判断力と実行力を持った人材を育成するところに学科の目的がある。

一方、もうひとつの地域福祉学科は、人間社会学部の応用部門を構成する学科といえる。この学科は、人権思想の普及、徹底と、それにうらづけられたノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等の普遍化に対応する新たな福祉社会の構築を目指している。また、少子・高齢化社会に備え、広く地域社会における福祉の実現をはかる地域福祉を根底にした社会福祉のより高度な知識、技術の専門的教育と職業能力を備えた人材を養うことを目的とした学科である。

人間社会学部は、各学科の目的を実現するうえで、特徴をもった教育課程を編成してい

る。学生の学習効果をより高めるためのセメスター制の導入とともに、幅広い教養教育を目指す二学科共通の「基礎教育科目」と、二学科それぞれの教育理念と目標に沿った「専門教育科目」から構成されている。また両学科とも幅広い、多様な授業科目を設定すると同時に、個々の学生がその興味や関心にしたがって自由に選択できるよう、ガイドラインとなる履修モデルを用意して、系統的な学習ができるよう配慮している。現代社会に不可欠な徹底した情報教育もまた、本学部の特色を改めて紹介されよう。

人間社会学部は発足して一年に満たない。本学部の理念と目標の実現、各学科の展開と教育課程の成果は、学生と教員及び大学関係者の今後の取り組み如何にかかっているといえよう。人間社会学部はこの重大な課題を担うための出発である。